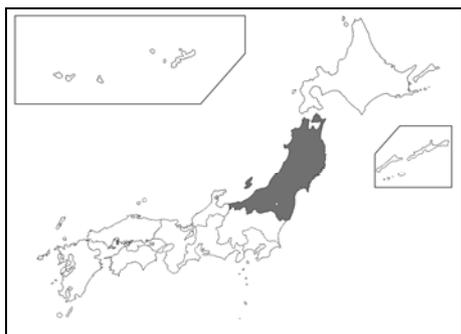


(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はこのところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

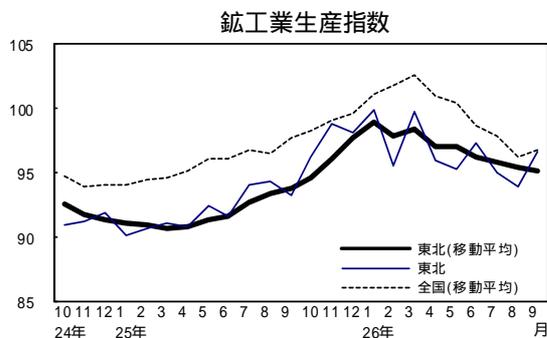
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)
景況判断	回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる
住宅建設	減少	大幅に減少
雇用情勢	着実に改善	改善

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、このところ弱含んでいる。

7～9月期には、電子部品・デバイスは、コネクタが好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、海外向けに半導体製造装置が好調だったこと等から増加した。食料品・たばこは、水産加工食品等が減少した。情報通信機械は、パソコンソフトのサポート終了に伴う駆け込み需要の反動及び消費税増税前の駆け込み需要の反動等からパソコン等が減少した。輸送機械は、消費税増税前の駆け込み需要の反動等から乗用車等が減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

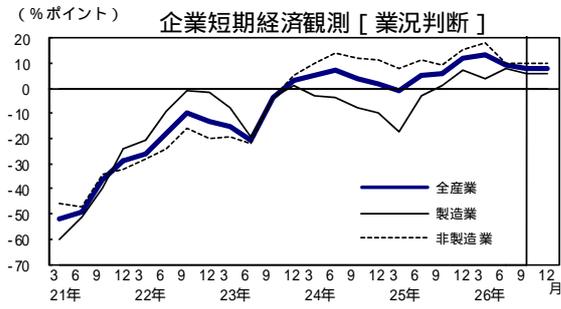
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	16.9	3.1	1.9	0.2	2.2	3.2
はん用・生産用・業務用機械	14.7	9.7	2.3	1.5	0.8	18.7
食料品・たばこ	10.6	2.7	6.4	11.8	5.5	1.0
情報通信機械	9.2	16.4	2.6	2.6	1.4	3.3
輸送機械	8.3	12.8	2.5	1.8	6.0	1.4
鉱工業	100.0	2.2	1.0	2.4	1.2	3.0

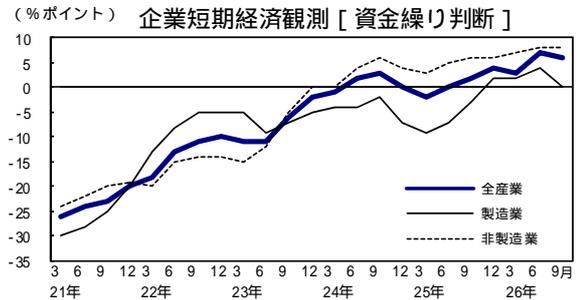
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

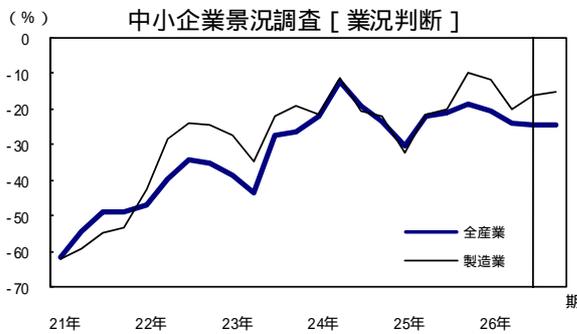
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

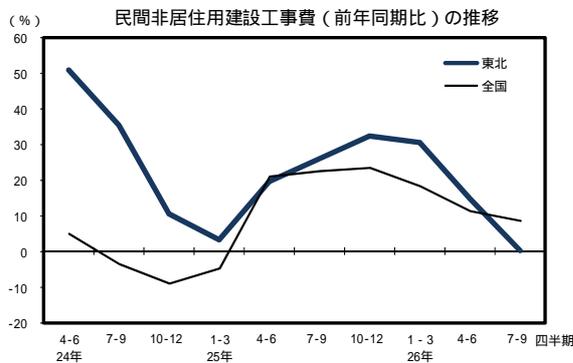


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「首都圏向け商品の販売が好調な反面、東北向け商品の販売が不調であるため、前年の販売量をキープすることで精一杯な状況である(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度計画
全産業	8.2	10.6(6.8)
製造業	18.3	27.3(7.3)
非製造業	3.8	5.1(6.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.6%減、8月は同0.3%減、9月は同0.3%増となった。

大型小売店販売額

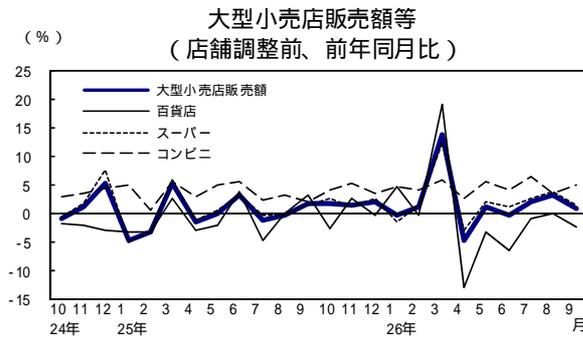
百貨店は、7月は、飲食料品は、総菜等が好調で前年を上回ったものの、主力の衣料品は、夏物衣料や呉服等がふるわず前年を下回った。8月は、衣料品は、夏物衣料等がふるわず前年を下回ったものの、飲食料品は、総菜等が好調で前年を上回った。9月は、衣料品は、婦人服や寝具等がふるわず前年を下回ったほか、飲食料品についても、菓子等がふるわず前年を下回った。

スーパーは、主力の飲食料品が、精肉や惣菜等が好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、40.2 となり前月より6.0ポイント低下した。

「消費税増税の影響や電気代、灯油代が高値のなか、客単価、買上点数共に低下している。また、年末が迫ってはいよいよ厳しくなったのか、苦しい表情で買物をする客が増えている (コンビニ)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

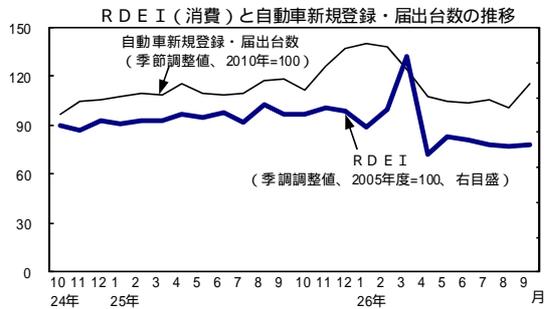


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	0.6	0.3	0.3
大型小売店(*2)	2.0	2.0	3.3	0.7
百貨店(*2)	1.1	1.0	0.0	2.3
スーパー(*2)	2.7	2.7	3.8	1.3
コンビニ(*2)	4.9	6.5	3.5	4.8
乗用車(*3)	5.7	3.1	13.5	2.7
(季節調整値)(*3)	2.0	2.7	5.2	14.8

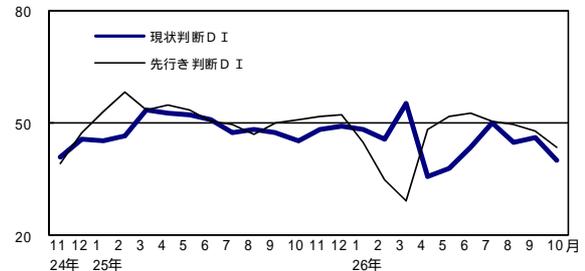
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



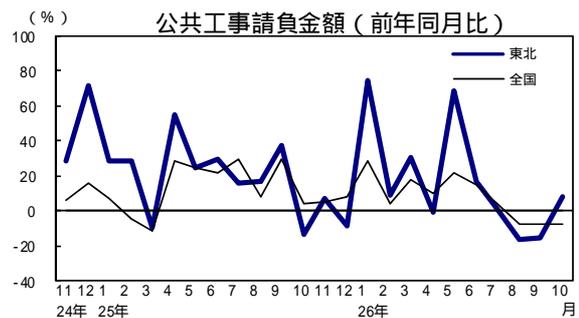
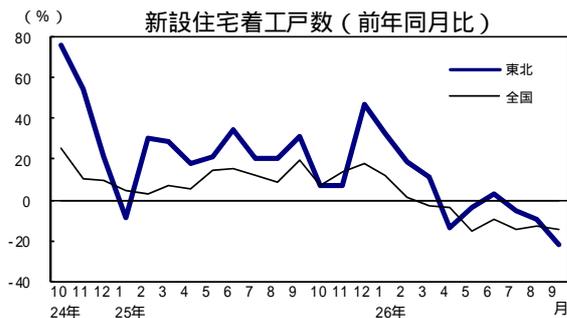
景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

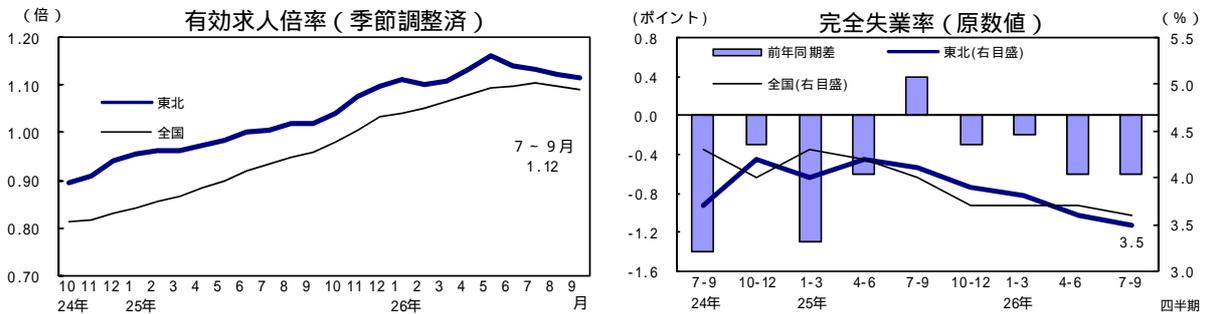


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考)24年1 - 3月期から24年7 - 9月期までの前年同期差は、補充推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

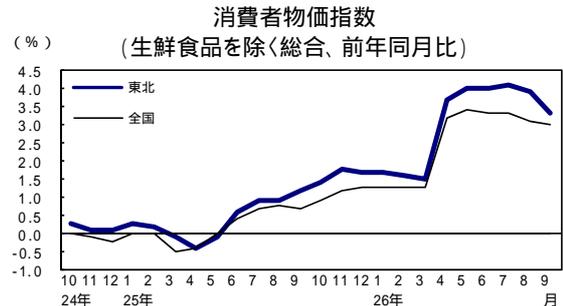
「職安管内の求職者が増加傾向にあるが正社員の求人が少ない(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、おおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	120	117	111	112	28
(前年比)	0.0	7.1	5.9	0.9	31.7
負債総額	218	156	200	328	61
(前年比)	11.2	41.2	33.1	67.8	6.1



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・気候が悪い日が多く果樹農家に大きな損害が出ている。一方、米農家は豊作ではあったが新米も買い取り価格が大暴落している。農業従事者が多いエリアのためこの影響は長く尾を引くとみている(一般レストラン)

<先行き>

・震災以降、震災復興事業関係又は建設関係のけん引で何とか保たれてきた当県の経済界も厳しくなってきた(コンビニ)

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

